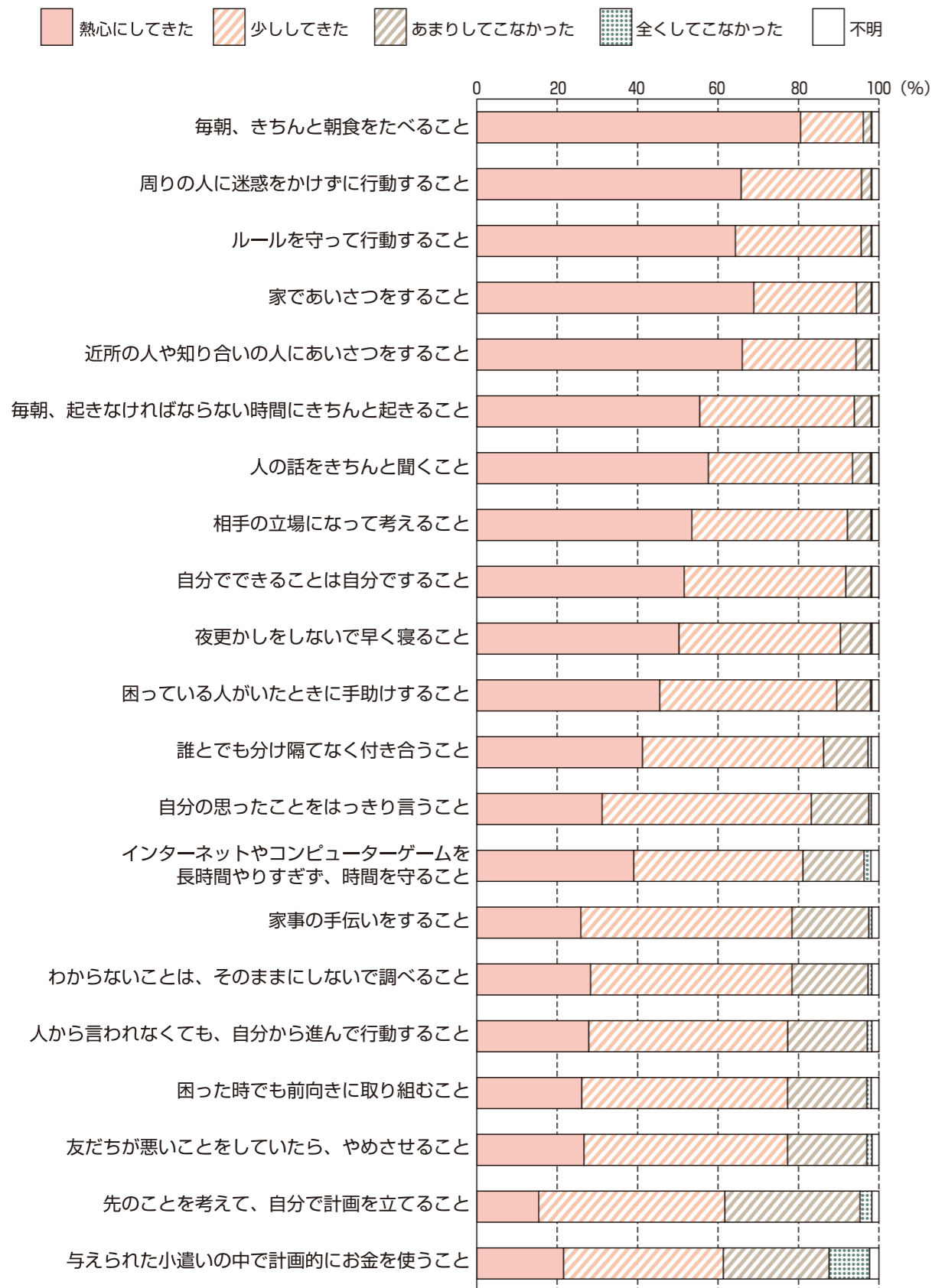


保護者の子どもとのかかわりの実態 (対象：小学1年～6年の保護者)



資料：独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査」(平成24年度)

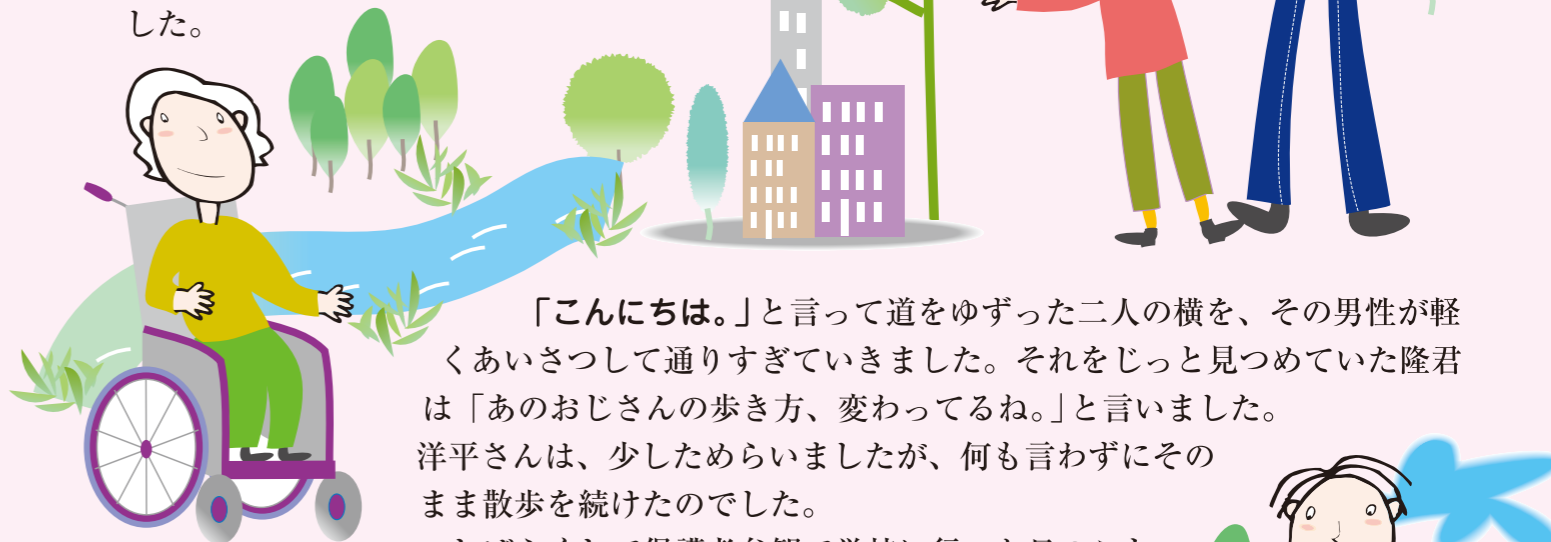
「信じる」

エピソード

洋平さんは自分の住んでいる町の緑が多いところが気に入っています。今日も小学校5年生の隆君と一緒に散歩に出かけました。川ぞいの道で車いすに乗った女性とすれちがいました。

洋平さんは、隆君がまだ小学校に入ったばかりのある日のことを思い出しました。

二人で散歩していると、男の人がつえについて足を引きずるようにして歩いてきました。



「こんにちは。」と言って道をゆずった二人の横を、その男性が軽くあいさつして通りすぎていきました。それをじっと見つめていた隆君は「あのおじさんの歩き方、変わってるね。」と言いました。洋平さんは、少しためらいましたが、何も言わずにそのまま散歩を続けたのでした。

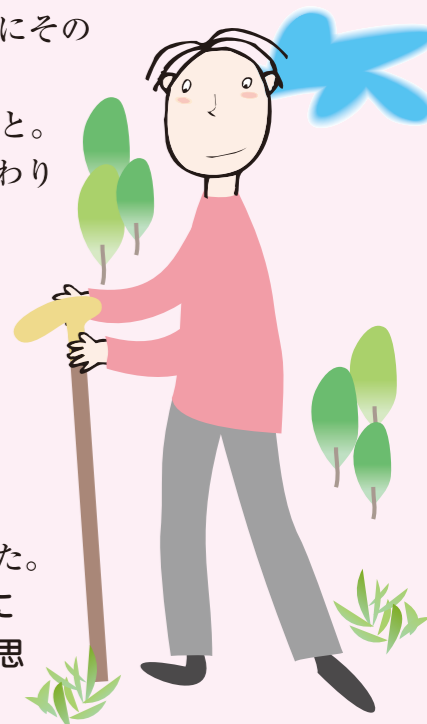
しばらくして保護者参観で学校に行った日のこと。洋平さんが教室へ行くと、隆君と同級生のサトル君がほうきをつえ代わりにして、足を引きずるまねをしてふざけています。

洋平さんが注意をしようかと迷っていると、うしろから「サトル！ そんなことをしたらだめでしょ！」とサトル君のお母さんが叱りつけました。

ちょうどその時、ベルが鳴って授業参観が始まってしまい、何となくいごこちの悪いまま帰宅したのです。

車いすの女性とすれちがった後、すぐに隆君は洋平さんに言いました。

隆：「この前、学校で車いすに乗る体験をしたんだよ。車いすに乗ったらね、座ったまま押してもらって、楽だろうなって思



っていたけど、とっても大変だったんだ。少しでも段があったら、こわくて前へ進めなかったし、道に自転車なんかおいてあったら、それだけで通れないんだ。学校の階段ものぼれないし、エレベーターがないと、こまるねとみんなで話したんだ。」



洋平：「車いすで生活しないといけない人は、たいへんだなあ。」

隆：「でも本当にいけないのは、道でこぼこや、おいてある自転車なんだ。それさえなかったら車いすで、どこでも行けるんだよ。」

洋平さんは、「そうだね。」としか言えませんでした。



洋平さんのひとりごと…
 ●おどろいたなあ、
 いろんなことを学校で
 習うんだなあ。
 知らないうちに隆が成長している
 ということなのかなあ…。

グループワーク

- 1 グループに分かれて話しあってみましょう。
- ① このエピソードで気になるところはどこでしょうか？
- ② 洋平さんの行動についてどう思いますか？

2 子どもの成長を気づかされた体験はありませんか？
 (次のワークシートに記入してみましょう。)

3 それぞれの体験を話しあってみましょう。

ワークシート(例)

子どもの問いかけや行動	あなたの答えや思い